

平成26年度

公立大学法人下関市立大学年度計画



公立大学法人 下関市立大学

目 次

I. 教育に関する目標を達成するための措置	1
1. 質の高い入学者の確保に関する目標を達成するための措置	1
2. 学士課程教育の充実に関する目標を達成するための措置	2
3. 修士課程教育の充実に関する目標を達成するための措置	4
4. 学生支援の充実に関する目標を達成するための措置	4
II. 研究に関する目標を達成するための措置	5
1. 独創性及び特色のある高い水準の研究の推進に関する目標を達成するための措置	5
2. 研究活動の充実に関する目標を達成するための措置	6
3. 研究成果の公表と社会還元に関する目標を達成するための措置	6
III. 地域貢献に関する目標を達成するための措置	6
1. 地域との共創関係の構築に関する目標を達成するための措置	7
2. 産学官連携の推進に関する目標を達成するための措置	8
IV. 国際交流に関する目標を達成するための措置	8
1. 学生の国際交流の推進に関する目標を達成するための措置	8
2. 国際交流体制の整備に関する目標を達成するための措置	8
3. 国際学術交流の強化に関する目標を達成するための措置	9
V. 管理運営等に関する目標を達成するための措置	9
1. 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	9
2. 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	10
3. 自己点検・評価・改善及び情報提供に関する目標を達成するための措置	11
4. その他の業務運営に関する目標を達成するための措置	11
VI. 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画	13
VII. 短期借入金の限度額	15
VIII. 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	15
IX. 剰余金の使途	15
X. 市の規則で定める業務運営に関する事項	16

I 教育に関する目標を達成するための措置

1 質の高い入学者の確保に関する目標を達成するための措置

(質の高い学生の安定的確保)

ア オープンキャンパスへの来学者 600 人以上、一般入試志願者数 3,500 人以上を目標とする。来年度から導入予定の新カリキュラム、新しいアドミッションポリシー、ディプロマポリシーを特に宣伝する。また、入試広報、オープンキャンパス、入試説明会、出前講義などのあらゆる機会をとらえ、高校生や保護者に対して本学への理解が深まるよう努める。(No.2-1)

イ 中京地区での試験会場新設を視野に入れて、地方試験会場のあり方を再検討する。(No.2-2)

(入試制度の見直し)

ウ 専門業者の受験動向分析を導入し、本学の受験市場における地位を詳細なデータを用いて再確認した上で、入試戦略のあり方を再検討する。(No.3-1)

エ 社会人、帰国子女の特別選抜の募集人員の見直しを検討する。(No.3-2)

オ 地域推薦Aについて、入学後の修学状況を加味した運用を行い、同入試による入学者の質の維持を図る。(No.3-3)

(広報活動の強化、入試広報の充実)

カ 平成 25 年度に引き続き、ウェブ関係の広告、地方会場の福岡地域における広報に重点を置き、志願者確保のための戦略的な広報を展開する。

(No.4-1)

キ 学生広報委員会、生協学生委員会などと連携しつつ、学生の顔が見えるオープンキャンパスを実施する。また、学生を紹介する資料の展示を継続する。

(No.4-2)

ク 平成 25 年度に引き続き、大学ホームページにおいて、必要な情報が容易に到達できるよう改良する。(No.4-3)

(高大連携の充実と促進)

ケ 入試広報戦略に沿った高大連携活動を展開する。とりわけ、この活動を通じて、高校側のニーズ、要望をくみとる努力をする。(No.5-1)

コ 高大連携事業の広報宣伝活動のために、出張講義冊子「出張講義ライブラリー2014」を作成して配布するとともに、ホームページを更新する。

(No.5-2)

(大学院入試制度の見直しと広報の強化)

サ 大学ホームページの充実などにより大学院広報を強化し、大学院における教育研究の成果などを広く社会に情報提供していく。(No.7-1)

2 学士課程教育の充実に関する目標を達成するための措置

(1) 教育内容

(初年次教育の強化)

ア アカデミックリテラシーや入門的な科目を充実するための検討を進め、平成 27 年度の新カリキュラムで実施する内容を確定する。(No.9-1)

(外国語能力の養成)

イ 英語と朝鮮語の到達度別クラス編成を継続しつつ、学生・教員へのアンケートなどを通して、学習効果を検証する。また、第一外国語のそれぞれに一応の定員を設けることによって受講者の極端な偏りを解消する。(No.10-1)

ウ 各種検定試験等の単位認定制度について学生に周知し、50 人程度の単位認定を目指す。また、新カリキュラムでも引き続き単位認定を行えるよう、制度の見直しを行う。(No.10-2)

エ 以下の取り組みによって協定校などへの留学を推進する。(No.10-3)

(ア) 「日本にいながら世界を知ろう!!」を年 6 回開催し、学生に一層の国際理解と国際情勢に興味を持つことを促す。

(イ) 中国語、朝鮮語、日本語のスピーチコンテストを開催し、学生団体主催の英語弁論大会の後援をすることにより、協定校への交換留学や派遣留学に対応できる語学力の習得意欲を高める。

(ウ) 私費留学の単位認定を行うことで、学生に海外での修学を奨励する。

(就業力の育成)

オ インターンシッププログラムの高度化のため、国際インターンシップについては、中国（青島・大連）、韓国（釜山）、シンガポールで実施する。平成 27 年度に向けて、シンガポール以外で英語による研修が可能な地域での実施の可能性について検討し、結論をだす。また、昨年引き続き、国内インターンシップについては、九州・沖縄地区の他大学と連携することにより、より広い地域と分野での派遣先企業を開拓する。(No.12-1)

カ 「就業力マイスター」について関連科目の授業などで周知し、エントリーを推奨する。また、平成 27 年度以降のカリキュラムの改編に対応した新たなマイスター制度について具体化を図る。(No.12-2)

(2) 教育方法

(学士力の質保証)

ア 教育の質保証のために、シラバスの改善を行い、オリエンテーションや履修指導等で、科目ナンバリング、GPA 制度について学生に周知する。

(No.13-1)

- イ 出欠管理システム、学習ポートフォリオ及び教学 I R (Institutional Research) の導入について引き続き検討し、結論をだす。(No.13-2)
(学生の顔の見える教育)の充実)
- ウ 大人数クラスについて時間割調整や履修制限を実施し、教育の質を保証する。また、平成 27 年度以降の新カリキュラムに向けて「アカデミックリテラシー」「基礎演習」「発展演習」の具体化を図る。(No.14-1)
- エ 各種行事を通して上級生が下級生(特に新入生)を指導する機会を増やし、相互の学修面での向上を図る。(No.14-2)
(FDの実践による授業改善の推進)
- オ 授業アンケートを学期ごとに実施し、また、FDワークショップを開催し、授業等への効果的な活用を図る。(No.15-1)
- カ 教職員による授業参観を実施し、授業改善を図る。(No.15-2)
- キ 他大学との交流や開催するイベントへの協力などを通して、学生によるFDに関する活動に対しての支援を行う。(No.15-3)
(大学間連携事業の推進)
- ク 「大学コンソーシアム関門」では、加盟 6 大学の連携のもと、共同授業の開講や学生FD活動を通じての学生交流事業を推進する。また、下関地域の 3 大学で組織する「Aキャンパス」については、下関市内 5 高等教育機関理事長懇談会の下に設置されたワーキンググループにおいて、制度の見直しや活用方法を検討する。(No.16-1)

3 修士課程教育の充実に関する目標を達成するための措置

(1) 教育内容

(教育内容の充実)

- ア 平成 27 年度からの大学院再編に向けて、諸規程の整備などの準備を進める。(No.17-1)

(2) 教育方法

(教育方法の充実)

- ア 大学院修士論文研究発表会や大学院学会総会などの機会に大学院生の要望を聴取するなど大学院のFD活動を推進し、教育効果の検証や教育方法の改善に努める。(No.18-1)

4 学生支援の充実に関する目標を達成するための措置

(1) 学修支援

(学修支援の充実)

- ア 学修支援として、平成 25 年度に引き続き以下の取り組みを行う。(No.19-1)
- (ア) 保護者懇談会を年 1 回開催し、大学と保護者の連携を密にすることによって、大学教育への理解が深まるようにする。
 - (イ) 過少単位取得学生とともに、春学期の単位取得の少ない編入生及び、基礎演習の単位をとれなかった 1 年生についてもきめ細かいケアに努め、最短在学期間で卒業できるよう学修指導を行う。
- イ 学修状況の改善につなげるため、保護者へ年 2 回の成績通知書発送時に併せて成績に関する説明書を送付し、保護者に対して学修状況の現状についての認知を促す。(No.19-2)
- ウ 教員との連携を図り、学生からの希望図書への提示を促す。特に専門演習受講学生を対象とする選書を充実させていく。(No.19-3)

(2) 生活支援

(生活支援の充実)

- ア 生活支援として、継続して以下の取り組みを行う。(No.20-1)
- (ア) 授業料減免・分納制度及び特待生制度の周知を徹底する。
 - (イ) 大学祭時に学生の団体・サークルの責任者を対象としたアルコールハラスメント講習会を実施し、ハラスメント防止に努める。
 - (ウ) 学生委員会とハラスメント防止委員会が連携し、ハラスメント防止の啓発活動を強化し、学生が相談しやすい環境を整備する。
 - (エ) 新入生オリエンテーション時に薬物乱用防止・消費者啓発講座を実施し、啓発活動に努める。
 - (オ) 学生の団体・サークルの組織的運営の円滑化のために、リーダーシップトレーニングを年 2 回実施する。
 - (カ) 学生の団体・サークルの要望等を把握するために、学友会執行部との協議を年 2 回以上実施する。
- イ 市民からの活動依頼を把握し、積極的に応じられるように学生団体との連携を強化する。また、依頼者にボランティア保険加入の促進を図り、安心してボランティアに取り組める環境を整える。(No.20-2)
- ウ 役員対象、教職員対象、学生対象のハラスメント防止講習会を実施する。また、ハラスメント相談員等を対象とした相談への対応についての講習会も実施する。
- 学生対象の講習会に関しては、1 年次生を主な対象とするが、2～4 年次生に対しても様々な機会を捉えてハラスメントに関する啓発活動を行う。
- (No.20-3)
- エ ハラスメント防止委員会とハラスメントの相談窓口でもある健康相談室

との連携強化を図る。(No.20-4)

オ ハラスメントに関する学内の状況を把握するため、学生等を対象にアンケートを実施し、ハラスメントの早期解決及び防止体制の充実強化を図る。

(No.20-5)

(3) 就職支援

(就職支援の充実)

ア 就職支援の充実のため、市大キャリアスタディや実践的な就業力育成を目的としたチームビルディング研修を実施する。また、個別カウンセリングのより一層の充実をはかる。(No.21-1)

イ 就職決定率を90%以上とする。(No.21-2)

ウ 学生の要望や社会情勢に応じた資格取得講座の開設・閉鎖を不断に見直す。

(No.21-3)

II 研究に関する目標を達成するための措置

1 独創性及び特色のある高い水準の研究の推進に関する目標を達成するための措置

(独創性のある研究の推進)

ア 教員がそれぞれ独創性及び特色のある研究の計画を策定し、大学がその研究の推進を支援する。(No.22-1)

(地域研究の推進)

イ 創立60周年記念事業の一環として、下関を中心とした地域の課題等に即した研究を実施する。また、「関門」「東アジア」に関連する研究を支援する。

(No.23-1)

ウ 地域の課題に即した研究として、地域共創研究2件を実施する。(No.23-2)

エ 北九州市立大学との関門地域共同研究を引き続き実施する。(No.23-3)

2 研究活動の充実に関する目標を達成するための措置

(科学研究費助成事業等への申請・採択の向上)

ア 科学研究費助成事業等への申請にインセンティブを持たせ、教員の7割以上の科学研究費助成事業申請を目指す。また、科学研究費助成事業等の申請説明会を充実し、採択率の向上を図る。(No.24-1)

(研究環境の改善及び支援体制の整備)

イ 教員の研究環境を改善するための方策を検討する。また、研究に関する公募情報などの整理・通知を充実し、研究支援体制の改善に努める。(No.25-1)

3 研究成果の公表と社会還元に関する目標を達成するための措置

(研究成果の公表と社会還元)

ア 機関リポジトリ「維新」に論文を公開していく。(No.26-1)

イ 関門地域研究(関門地域研究会)、地域共創センター年報を発行する。
(No.26-2)

(他大学との共同研究会、学術シンポジウム等の推進)

ウ アーカイブ部門に関連して、学術シンポジウムを1回以上開催する。
(No.27-1)

エ 関門地域共同研究成果報告会を開催する。(No.27-2)

オ 東義大学校との平成27年度の国際シンポジウムに向けて、準備する。
(No.27-3)

カ 木浦大学校との共同研究を継続する。(No.27-4)

III 地域貢献に関する目標を達成するための措置

1 地域との共創関係の構築に関する目標を達成するための措置

(地域共創センター機能(部門)の充実)

ア 地域研究部門では、地域共創研究(2件)、関門地域共同研究(1件以上)を実施する。(No.28-1)

イ 地域教育部門では、公開講座を10講座以上実施する。(No.28-2)

ウ アーカイブ部門では、現在進行中の資料整理を、平成27年度までに完成するように、継続して実施する。(No.28-3)

(地域課題への取組)

エ 下関市内及び周辺地域の各種組織と連携協定を結び、地域共創研究や地域インターンシップ等の学生の活動を活発化させ、地域の諸問題に取り組む。
(No.29-1)

オ 関門地域共同研究成果報告会を開催する。(27-2再掲)(No.29-2)

カ 地域共創研究報告会を開催する。(No.29-3)

(唐戸サテライトキャンパスの活用)

キ 唐戸サテライトキャンパスを公開講座(年3回以上)の会場として利用する。(No.30-1)

(大学間ネットワークの強化)

ク 山口県内の大学による「大学コンソーシアムやまぐち」の各種事業に参加し、情報交換を行うとともに、連携活動を促進する。(No.31-1)

ケ 「大学コンソーシアム関門」では、引き続き共同授業を実施するとともに、学生交流事業の実施などを通じて、大学間のネットワークの強化を図る。

(No.31-2)

コ 下関市内 5 高等教育機関理事長懇談会を 1 回以上開催し、市との連携を強化するとともに、懇談会の下に設置されたワーキンググループで協議し、共同事業を実施する。(No.31-3)

(初等・中等教育との連携の推進)

サ ボランティア活動を推進する制度を整備し、留学生を含めた学生と地域の小中学生との交流を図ることにより地域貢献を促す。(No.32-1)

シ 関門地区内の高等学校との連携を推進するために、新たな協定候補の高等学校と具体的な情報交換を行うとともに、連携の内容について出張講義に加えて新たな内容を検討する。(No.32-2)

(大学施設の開放)

ス 教育研究等大学運営に支障のない範囲内で大学施設（教室、グラウンド、体育施設等）の開放を継続する。(No.33-1)

セ 図書館印刷物や館内掲示物の内容更新により、学外者にも利用しやすくし、大学ホームページでの広報などにより、提供情報の充実化を図る。(No.33-2)

2 産学官連携の推進に関する目標を達成するための措置

(共同事業、受託研究の推進)

ア 下関及び周辺地域の産業界や行政機構との研究会を行って地域課題を話し合う。また、共同事業や受託研究を 1 件以上実施する。(No.34-1)

(下関市との連携)

イ 下関市との連携を継続して公共マネジメント特講を開講する。(No.35-1)

ウ 下関未来大学を、平成 26 年度も実施する。(No.35-2)

エ 下関ユースカレッジを、平成 26 年度も実施する。(No.35-3)

(審議会等の委員就任)

オ 地方公共団体や民間団体の審議会等の委員などへの就任要請には積極的に対応し、産学官の連携を強める。(No.36-1)

IV 国際交流に関する目標を達成するための措置

1 学生の国際交流の推進に関する目標を達成するための措置

(留学生の派遣)

ア 年間 10 名以上の協定校への交換留学生及び派遣留学生を送り出し、在学中の 2 割以上の学生が留学又は海外研修の経験を持つことを目指す。

(No.37-1)

イ 私費留学の単位認定制度を広く周知する。(No.37-2)

ウ 朝鮮語圏、中国語圏及び英語圏における国際インターンシップの更なる充実を図る。(No.37-3)

(留学生の受け入れ)

エ 留学生チューター制度については、マニュアルを活用して新入留学生全員に適切なサポートが提供できるような支援体制を整える。(No.38-1)

オ 短期の日本語研修受け入れに向けて、協定校等への情報提供を行う。
(No.38-2)

2 国際交流体制の整備に関する目標を達成するための措置

(国際交流体制の拡充)

ア 交流協定を締結している大学との交流を引き続き推進する。カナダ及びドイツの大学と新規の交流協定を締結し、それに基づいて交流を推進する。(No.39-1)

イ 国際交流会館において地域住民も参加できるイベントを開催する。
(No.39-2)

(国際交流基金の拡充)

ウ 国際交流基金について、学内外に周知を徹底し、収入の増加を図るとともに、学生の国際交流活動への経済的なサポートを行う。(No.40-1)

3 国際学術交流の強化に関する目標を達成するための措置

(国際学術交流の強化)

ア 東義大学校との平成27年度の国際シンポジウムに向けて、準備する。
(27-3 再掲) (No.41-1)

イ 木浦大学校との共同研究を継続する。(27-4 再掲) (No.41-2)

V 管理運営等に関する目標を達成するための措置

1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

(1) 業務運営

(法人組織内の連携強化)

ア 各種委員会のあり方を不断に見直す。また、各種委員会のもとに必要な応じてワーキンググループを設置し、ワーキンググループ、各種委員会、教授会及び審議会との連携を図ることにより意思決定の効率化を図る。(No.42-1)
(コンプライアンスの徹底)

イ 法令や社会規範の遵守、倫理観の涵養のため、教職員向けに学内講師によるコンプライアンス研修を実施する。また、公益通報制度について教授会や

事務局研修の中で説明を行い、制度の周知を図るとともに、年1回以上の内部監査を実施し、内部相互チェックを行う。(No.43-1)

(各種任用制度の活用)

ウ 地域貢献とキャリア教育を担当する特任教員を採用し、学生や地域のニーズへの対応を向上させる。(No.44-1)

(教員データベースの構築)

エ 教員の教育活動や研究成果など教員に係る情報を一元管理するために、教員が毎年度作成する教員実績報告書のデータベース化を進め、完成を目指す。

(No.45-1)

(事務組織等の見直し及び業務の適正化・効率化の推進)

オ 適正な人事異動により、ひとつの業務を複数職員が掌握できる体制を構築する。また、不断に事務組織、事務処理プロセス及び各種規程を見直し、業務の適正化と効率化を推進する。(No.46-1)

(2) 人事の適正化

(教員人事計画の策定)

ア 現教員の年齢構成や職位、退任までの年数などを調査し、「教員人事計画」を策定して、教員採用方針を確定する。そのうえでバランスを考慮した教員の採用を実施する。(No.47-1)

(教員評価制度の充実)

イ 教員評価システムに基づく教員評価を実施し、その教員評価結果を研究費の配分や研修選考の際の参考とする。評価制度の活用を通じて教員のモチベーションがいっそう向上するよう、教員評価制度の見直しを継続する。

(No.48-1)

(事務職員人事計画策定と評価制度の充実)

ウ 事務職員人事計画を策定する。(No.49-1)

エ 事務職員の人事考課制度について点検評価し、必要に応じて見直す。

(No.49-2)

(SDの充実)

オ 平成25年度に引き続き、事務職員一般研修及び専門研修により、職員の資質・能力の向上を図る。(No.50-1)

カ 他大学との合同研修会では、職員の専門性を高めるため、各参加大学の実務担当者による意見・情報交換を行うとともに、職員相互の交流を深める。

(No.50-2)

キ 職員自主研修費助成制度の利用を引き続き促進する。(No.50-3)

2 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

(1) 自己収入の増加

(自己収入の増加)

ア 志願者、入学者の確保等によって、年度予算で見込んだ授業料などの学生納付金収入を確保するとともに、引き続き同窓会や後援会に支援を求めるほか、寄付金などを含めて、自己収入の増加に努める。また、研究費総額の2割以上の外部資金獲得を目標とする。(No.51-1)

イ 研究に関する公募情報などの整理・通知を充実し、科学研究費助成事業等の申請説明会を開催するなどの支援を行う。(No.51-2)

(2) 経費の抑制

(経費の抑制)

ア 事務分担の見直しや適正な人員配置を行う。(No.52-1)

イ 業務改善を内容とした職員提案を募り、優れた取組については実施することにより、事務の効率的な運営を行う。(No.52-2)

(3) 財務内容の健全性

(財務内容の健全性)

ア 第2期財政計画に基づき財務内容の健全化に努め、第1期中期計画期間からの繰越金を効率的かつ効果的に使用する。(No.53-1)

イ 予算編成にあたっては、各委員会等の要求・ヒアリングに基づき作成された予算(補正予算を含む。)の案を経営企画会議で確認することで、予算決定に至るプロセスの透明性を高める。(No.53-2)

3 自己点検・評価・改善及び情報提供に関する目標を達成するための措置

(1) 評価の充実

(評価の充実)

ア 各委員会で策定する年度計画や年間活動計画において可能な限り具体的な数値目標や実施時期を設定し、自己点検評価の基準として用いる。

(No.54-1)

イ 自己点検評価や法人評価委員会による外部評価での指摘事項を着実に大学運営に反映させる。(No.54-2)

(2) 情報公開の推進

(情報公開の推進)

ア 平成25年度に引き続き、大学案内、大学広報誌及びソーシャルネットワークサービス(SNS)を通じて、本学の情報を積極的に発信していく。

また、動画による広報活動を検討する。(No.55-1)

イ 平成 25 年度に引き続き、学生広報委員会によるオープンキャンパスの活動や学生広報誌の作成を支援する。また、大学ホームページ上において、動画による広報活動を検討する。(No.55-2)

4 その他の業務運営に関する目標を達成するための措置

(1) 施設設備の整備・活用

(キャンパス内施設設備の充実)

ア 平成 25 年度に策定した中期施設整備計画に基づき、各種工事を実施し、環境に配慮した機能的なアメニティ空間の維持・創設に努める。(No.56-1)

イ 中期施設整備計画のなかで学生のための学習スペースの整備をさらに推し進める。(No.56-2)

ウ より機能的なキャンパスに整備するため、学友会執行部との定期協議において、学生の要望を聞き取る。(No.56-3)

エ ごみやCO₂の排出量の削減に留意するなど、環境に配慮した事業活動を行う。(No.56-4)

(図書館の充実)

オ 蔵書点検の結果を受けて、大学の学術センターとして適正な蔵書管理とともに、地域特性を生かした特色ある蔵書整備を行う。(No.57-1)

カ 利用者の立場に応じたサービスの向上のために、その担い手となるスタッフの充実を考慮した図書館整備計画を策定する。(No.57-2)

(2) 安全管理

(安全管理体制の充実)

ア 平成 25 年度に作成した危機管理指針及びガイドラインに基づき、ハンドブックの内容の充実を図る。(No.58-1)

イ 教授会や新任事務職員研修で情報セキュリティポリシーを周知し、運用する。(No.58-2)

VI 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画

1 予算

（単位：百万円）

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	215
授業料等	984
入学金	125
入学検定料等	58
事業収入等	27
寄附金	3
補助金	10
目的積立金取崩額	166
計	1,588
支出	
一般管理費	323
人件費	1,034
教育経費	146
研究経費	42
教育支援経費（図書館）	35
補助金	8
計	1,588

（人件費の見積り）

総額 1,034 百万円を支出する。（退職手当を含む。）

2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
費用の部	1,646
經常経費	1,646
業務費	1,273
教育経費	180
研究経費	42
教育支援経費	17
人件費	1,034
一般管理費	313
財務費用	4
減価償却費	56
収益の部	1,480
經常収益	1,480
運営費交付金	215
授業料等収益	1,022
入学金収益	125
入学検定料収益	58
財務収益	0
雑益	27
寄附金収益	3
補助金等収益	10
資産見返運営費交付金等戻入	14
資産見返補助金戻入	1
資産見返物品	5
純利益	△166
目的積立金取崩額	166
総利益	0

3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	
業務活動による支出	1,534
投資活動による支出	14
財務活動による支出	40
翌年度への繰越金	139
計	1,727
資金収入	
業務活動による収入	1,422
運営費交付金による収入	215
授業料等による収入	1,167
受託研究等による収入	0
その他収入	27
寄附金による収入	3
補助金による収入	10
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0
前年度からの繰越金	305
計	1,727

VII 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2億円

2 想定される理由

運営費交付金等の受け入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることを想定する。

VIII 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

IX 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設整備の改善に充てる。

X 市の規則で定める業務運営に関する事項

1 施設及び設備に関する計画

(単位 百万円)

計画の内容	予定額	財源
既存施設修繕	8	積立金取崩額、運営費交付金等

2 積立金の使途

目的積立金及び前中期目標期間繰越積立金は、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。

3 その他法人の業務運営に関し必要な事項

なし

【用語の解説】

●アーカイブ

古文書、公文書などの様々な媒体の資料・コンテンツや、その記録保管所のこと。

●アカデミックリテラシー

学術的な文章を読む能力や書く能力、学術的に考える能力をいう。

●アドミッションポリシー

受験生に求める能力、意欲、適性、経験などについて、大学の考えをまとめた基本的な方針。

●アメニティ

環境の快適性、整備されていること。

●インターンシップ

学生が自らの専攻や将来の職業に関連した就業体験を行う制度。インターンシップを経験することにより、高い就業意識を身につけることができ、大学での学習意欲の向上につながるという効果を生むとともに、将来の進路選択において自らの適性や能力について実践的に考える機会となる。

●オープンキャンパス

入学希望者を対象として大学が行う説明会や学校見学会

●学習ポートフォリオ

学習履歴の記録のこと。授業や教育活動を通して得た知識や成果を記録することで、学生の自主的な学習の促進や学習意欲の向上を実現する。

●科目ナンバリング

それぞれの科目の系統性・順次性を直感的に一目でイメージできるようにするための、カリキュラムにおける配置位置を示した数字の組み合わせをいう。

●機関リポジトリ

大学などがその構成員の創造した知的生産物（論文、研究発表など）を電子的形態で保管し、公開するサービスのこと。

●教員データベース

教員の教育活動や研究成果など、教員に係る情報を収集・管理し、容易に検索・抽出などの再検索を可能にしたもの。

●教学 I R (Institutional Research)

大学の運営に役立つ情報を提供する役割を担う機能、大学機関研究。大学内の様々な情報を収集、数値化・可視化し、評価指標として管理して、分析結果を研究・学生支援・経営等に活用する。

●公益通報制度

組織の内部の人間が組織の法律違反行為をしかるべき機関に通報し、事実調査を

行い、是正を図るとともに、通報者の保護を図る制度。

●コンソーシアム

複数の大学が連携し、教育や学術研究の共同実施を行うために組織された団体のこと。

●就業力マイスター

学生が将来進みたい道を意識しながら、専門的知識を習得していく仕組み。就業力に関わるマイスター（資格制度）を設定し、マイスターごとに指定する科目群からなるパッケージを編成し、このパッケージ科目、インターンシップ、実習、内定後教育等の単位取得者に対して、就業力マイスターの称号を授与するという制度。

●シラバス

授業計画。従来の講義概要をより詳細にしたもの。

●地域推薦A

下関市及び山陽小野田市に所在する本学が定める基準を満たす高等学校等を卒業（修了）見込みであり、特に優秀であると認める生徒を学校長が推薦する制度。

●チューター制度

外国人留学生等に対して、日本人学生がマンツーマンで学習や学生生活についての助言や支援をする制度。

●ディプロマポリシー

卒業認定、学位授与に関する方針。大学の理念・目標を踏まえて、育成する人材像を学位授与のために身につけるべき能力として提示したもの。

●ワークショップ

研修集会のこと。参加者が自主的に共同研究や創作活動を行う場のこと。

●F D (Faculty Development)

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるために行う組織的な取組みのこと。学生に対しての授業評価アンケート、教員相互の授業参観や研修の開催などがある。

●G P A (Grade Point Average)

世界標準的な大学での学生成績評価の方法。留学の際などに学力を測りやすい。各科目の5段階評価を、秀（90－100点）4、優（80－89点）3、良（70－79点）2、可（60－69点）1、不可（59点以下）0、のように数値化した合計点を、履修した科目数で割ってスコア化する。全秀なら4.00、全不可なら0.00となる。

●S D (Staff Development)

大学職員が大学職員としてふさわしい資質を持つための自己啓発及び企画力向上などの能力開発のこと。「職員改革なくして大学改革なし」とも言われ、大学経営及び大学改革そのものの大きな柱の1つになっている。